

平成 26 年度第三回摂食嚥下班会議拡大版の議事録（要旨）

開催日時：平成 26 年 12 月 17 日（水）18 時 30 分～21 時

会場：新天本病院

参加者（敬称略）：小池、伊東、五十里、宮本、佐々木、折原、渡部、淵野、門脇、岡島、木下、池田前田、大津、信夫（太字の方は今回より参加されました）

- ※ 星医療酸器より、ライフロンQLの情報提供と在宅酸素療法管理に関する実績報告
- ※ クリニコより、エコフローの情報提供
- ※ オブザーバーでユニチャームの方が見学

議題：

1. 11 月 29 日開催のハンズオンセミナー報告

歯科医師の参加が多く、アンケート結果でも好評であった。（HPに掲載）

実際に演習できるセミナーはまだ少ないので、また企画できたらよいと思った。

2. 胃ろう撤退の症例に関する情報交換

【事例】自己決定できない患者さんに代わって、ご家族の意向でPEG造設したが、介護者（夫）の寿命が本人より先につきそうな状況となり、介護者（夫）は患者さんを看取ってから死にたいと希望し、PEGによる栄養療法を止めていきたいと介護者（夫）から入所施設（老健）が相談を受けた。直接介護者は夫のみ、遠方に住む息子やあまり縁のない親族との関係は不明。

★ 医療の見地からは、造るときも抜く（やめる）ときも、医師からの十分なICがあって進んでいくことだと思っているので、施設長（医師）の考えも確認していくことは必要だと思う。医師の立場でガイドラインなど情報収集して介護者と十分に話し合って結論をだしていくのが望ましい。

★ ご家族二人きりではなく、血縁関係の方がいるのであれば、介護者からの了解してくれているという言葉だけでなく、第三者確認による客観的な視点での合意があるほうがよい。介護者は血縁ではないので、伝え方や受け止め方にズレが生じてしまう可能性も考えられる。

★ 今回の事例に近い場面はあまり話題になることはないが、ほかにもあると思う。患者さんと関わることになる人すべてが時間をかけて話し合う環境が大切になっていると思う。

★ 在宅では胃ろう撤退事例はあるが、家族と話し合い実施しているとの報告があった。

3. 摂食嚥下活動について

★ 前回、医療者向けに考えているリーフレットについてはいただいたコメントをもとに現在修正している。院内の職員へ対する周知・教育がなかなか浸透しない問題があるので、リーフレットを活用していきたいと考えている。

★ 今後の活動として、もっと能動的にしていきたい。在宅患者さんと会費制の年間契約をして定期的にメンテナンスする訪問事業はどうか？Dr・ST・Ns混合を3チームくらい作

れば、まとまりのある活動が行えると考えている。漠然としている提案のため、もう少し具体的に検討すすめてみる。

- ★ 失語症の患者会があり、当事者が25名くらい集まっている。新天本病院のSTが参加しているが、高齢化とともに機能低下もすすんできているような感じもする。地域でSTのいないところは悩んでいるとの情報がある。

4. TYD浜本さんよりアプリ説明（資料配布）

Mano 多摩地区摂食嚥下連携スケジューラーについて、今回は家庭版スケジュール等管理と連携機能のスケジュール等活用が明確に分かれて、活用方法について具体的にすすめていく提案があった。

実行委員会を発足し、実際に動かしながら具体的な提案事項を形にしていくことにした。第一回目として、平成27年1月21日（水）17時30分～新天本病院集合し話し合いを行うことにした。

5. その他

- ★ 在宅PEG交換について、関連機関で実績がとれているので、多摩市に報告していく。
- ★ 平成27年1月21日（水）19時より理事会開催、参集ください。
- ★ 「ご本人に代わって意思決定を行う方のための小冊子」をネットでみつけたので参考資料として配布。

次回の摂食嚥下班会議

平成27年3月18日（水）19時～

会場 新天本病院にて